鳴尾インフォメーション

INFO 01 アート展示が4月にリニューアル！ みなと銀行鳴尾支店で学生のアートを展示 「みんなの ちっちゃなアートボックス」は第三弾

作品名：「武庫女SEタワーマンション好評分譲中！」

みなと銀行鳴尾支店のロビーで、幼稚園教諭や保育士を目指す学生が作ったミニチュア部屋を30~40点展示。武庫川女子大学教育学部教育学科の「子どもと造形表現」という授業の課題で、「もしも大学建物の高層階に住居ができたら」という夢をアートで表現しています。

鳴尾・武庫川女子大前駅 駅前公園にある「みんなの ちっちゃなアートボックス」の第三弾は武庫川女子大学の肥後准教授が担当。「私たちが今見ている街の記憶は、いつか別の記憶と融け合っていく。そのような不確かな記憶さえも自分の一部となるのでは…と思い制作しました」。素材にはゼミ生が撮影した鳴尾周辺の写真も使われる予定です。詳しくは右記SNSをチェック！

第三弾展示：武庫川女子大学 生活環境学部 情報メディア学科 肥後有紀子准教授の作品　※イメージです。

INFO 02 鳴尾エリアマネジメント連絡会初イベント！ 「鳴尾ふれあいイベント2022」開催

4月8日（金）～17日（日）　★4月2日（土）・3日（日）はプレイベント

鳴尾・武庫川女子大前駅周辺で春のイベントが開催されます。武庫川女子大学の学生によるステージのほか、地域の魅力や歴史に触れながら街をきれいにするクリーンイベント、未来の鳴尾の街をジオラマ作品に仕上げるアートイベントなど盛りだくさん！ 詳しくは上記なるお通信のSNSから。

開催場所 武庫女ステーションキャンパス内 レクチャールーム　ほか

INFO 03 社会人も学べる公開講座 「武庫川女子大学オープンカレッジ」 鳴尾・西宮北口キャンパスで開講

「武庫川女子大学オープンカレッジ」では2022年度の受講生を募集中。本学ゆかりの有名文化人や人気講師から学べます。今年度より鳴尾キャンパスのほかに、阪急西宮北口駅から徒歩5分の西宮北口キャンパスでも芸術や国文学を中心に開講します。

お問い合わせ 武庫川女子大学ホームページ、TEL.0798-45-3700（9:30～17:00／土・日曜・祝日は休）

イベントの詳細・お問い合わせ先等は、二次元コードから各イベントのWEBページをご覧ください。

⚠ 新型コロナウイルスの感染状況によってはイベントが中止、開催内容が変更になる場合がございます。

ランチ どこ行く？ 第4回

居酒屋 TORISAN（トリサン） 別館（べっかん） ゆうなみ

（左から）武庫川女子大学 井上凪彩さん、丸山明莉さん

ららぽーと甲子園から徒歩1分、炭火焼の文字に惹かれて引き戸を開けると、ウッド調の清潔で明るい店内が広がる。ガラス越しの焼き台からご主人と奥さんが元気よく迎えてくれた。

一番人気という「ゆうなみ三色丼御膳」1,600円を注文。皮はパリッと香ばしく、身はふっくらと焼き加減が絶妙な鹿児島県産の鰻、和歌山県産のふわふわしらす、自慢のたれで仕上げたしっとり柔らかな焼き鳥が大きな丼に盛られて運ばれてきた。交互に食べるとお箸が止まらない美味しさ！ ボリューム満点の丼に味噌汁、季節野菜の小鉢、漬物が付いてこの価格はお手頃。

鹿児島県出身のご主人が「栄養価の高い国産鰻を提供してみんなを元気にしたい」という想いで2年前に店をオープン。若い人からご年配の方まで、年齢を問わず気軽に足を運んでほしい。

読者サービス！ 「なるお通信を見た」とご注文いただくと**200円引き**。※うなむすびは対象外（2022年10月末まで）

TORISAN 別館 ゆうなみ
西宮市甲子園八番町6-14　TEL.0798-81-5473
【営業時間】11:30～14:00、17:00～24:00／月・日曜休（夜営業は3月より再開予定。詳しくは店舗まで）

阪神電車 HANSHIN ELECTRIC RAILWAY "たいせつ"がギュッと。
武庫川女子大学 Mukogawa Women's University

なるお通信 配布場所：阪神電車各駅、武庫川女子大学、Lavy's Café、知るカフェみなと銀行武庫川女子大学店、みなと銀行鳴尾支店、ライフ阪神鳴尾店、西宮市鳴尾支所・高須分室、なるお会館　ほか
（配布にご協力いただける場合は阪神ステーションネットまでご連絡ください。）

なるお通信 Vol.4（2022年春号）
「なるお通信 Vol.5」は2022年秋発行予定です。お楽しみに！

発行　鳴尾エリアマネジメント連絡会
（株）エンリッション／（株）阪神ステーションネット／阪神電気鉄道（株）／（株）みなと銀行／学校法人武庫川学院／（株）ライフイノベーション／（株）ライフコーポレーション（50音順）
制作　（株）阪神ステーションネット　大阪市福島区海老江1-1-31　☎06-6347-6601
※なるお通信に関するお問い合わせ・情報提供は阪神ステーションネットまで。
※記載の価格には消費税が含まれています。

NARUO TSU-SHIN　facebook　twitter
※なるお通信のバックナンバーをご覧いただけます。

Mukojoがある街を知る

NARUO TSU-SHIN なるお通信

Vol. 04　TAKE FREE

地域でつむぐ「鳴尾いちご」の物語

鳴尾東小学校の児童たち、パティスリー ベルンの倉本さん、武庫川女子大学のみなさん　※撮影時のみマスクを外しています。

なるお会館展示

阪神間のベッドタウンとして閑静な住宅が立ち並ぶ鳴尾地区。明治後期から昭和初期にかけて、この一帯にはいちご畑が広がり、全国的に有名な一大産地だったそうです。その後、台風や戦争の影響で衰退しますが、実は現在も鳴尾いちごの栽培は途絶えることなく受け継がれています。畑を守り続ける農家、いちご栽培を教育に活用する学校、お菓子作りを通して普及に尽力する洋菓子店など、取材を進めていく中で地域の方々の交流が見えてきました。

女子総合大学で学生数日本一 Mukojoがある街を知る

なるお通信とは…

鳴尾エリアマネジメント連絡会が発行する、鳴尾に住む人も、住んでいない人も、思わず出かけたくなる鳴尾の魅力を発信するミニコミ誌

特集

地域でつむぐ「鳴尾いちご」の物語

パティスリー ベルン オーナーシェフ
倉本 洋一さん

1968年創業、西宮市に4店舗を構える洋菓子店の二代目オーナーシェフ。お菓子作りを通じて、鳴尾いちごの魅力を地域に発信している。

1

2

3

4

4

4

4

教育現場で語り継がれ、地域に広がる「鳴尾いちご」

現在、鳴尾いちごは市場から姿を消してしまいましたが、その栽培が絶えることなく受け継がれている場所があります。

中島農園の中島さん(1)は「昔はこの辺りには畑がたくさんありましたが、時代の変化とともに減少しています。そんな中で、私の父が畑を守り続けました。今では唯一の生産農家になりましたが、父の想いを引き継いで栽培を続けています」と話してくれました。かつての鳴尾いちごの興隆は、鳴尾町3丁目のなるお会館の展示(2 ※のぼりやかごなどの道具)でもうかがい知ることができます。

鳴尾いちごがまだ栽培されていることを知った武庫川女子大学の酒井先生は、地域教材として活用するために校舎の屋上で学生(3)と鳴尾いちごの栽培を始めます。栽培や研究の成果は公開講座などで発表し、地域で鳴尾いちごを知ってもらう機会を提供。また、鳴尾地区の小学生を対象にいちご摘みの体験学習や、鳴尾いちごの歴史や育て方を伝える出前授業を行い、苗と栽培キットも児童にプレゼント。現在、鳴尾東小学校(4)では2年生が苗を育て始め、3年生でいちごを収穫。育てた苗は地域の幼稚園や保育所、地域の方々に贈られ、受け継がれます。また、栽培や探究で学んだことを3年生が2年生や保護者に発表する機会もあり、鳴尾いちごの学習や普及につながっています。「噛んだらジュワッとして、とっても甘い!」と鳴尾いちごのおいしさを知った児童たちは、「世界中に広まってほしい!」と目を輝かせます。

中島農園から始まった鳴尾いちごの栽培は、地域教材として多くの人に伝わって、ゆっくりですが確実に地域に広がっています。再び名産品と呼ばれる日を夢見て、これからも地域の人々によって受け継がれることでしょう。

なくなりつつある名産品「鳴尾いちご」を使ったお菓子で地元に貢献!

長年地域で親しまれている洋菓子店「パティスリーベルン」は“まごころづくり、夢づくり”を理念に、素材の美味しさを活かした洋菓子を販売しています。そんな同店と鳴尾いちごの出会いは今から6年前。西宮商工会議所を通じて、武庫川女子大学の酒井先生から「学生が大学で栽培した鳴尾いちごを使ってお菓子を作れませんか?」と相談を受けたのが始まりです。以前から地域貢献にも力を入れていた倉本さんは「せっかく作るのなら、地元のランドマーク・甲子園球場の銘菓にしたい」と大きな夢を掲げて「甲子園ほろほろクッキー」の開発に乗り出しました。

「鳴尾いちごは露地栽培なので収穫時期が5月に集中します。風味を落とさず保存するためにはパウダー加工が必要でした」。そのため乾燥機や専用ミルを揃え、収穫時期は24時間フル稼働で乾燥を繰り返します。現在、栽培されているのは「宝交早生(ほうこうわせ)」という宝塚で生まれた品種で、小ぶりながらも強い香りと甘酸っぱさが特徴です。地元農家の協力もあり、鳴尾いちごの素材の良さを活かしたクッキーを安定生産できるようになりました。この取り組みは新聞でも取り上げられ、2021年の夏には阪神甲子園球場 16号門横のスタジアムショップでの販売が実現。現在はコロナ禍でベルン直営店とオンラインのみの販売ですが、阪神甲子園球場の銘菓になるという夢に向けて大きな一歩を踏み出しています。

パティスリー ベルン
甲子園本店
西宮市学文殿町1-8-19
TEL.0798-47-4958
【営業時間】9:30〜20:30／
無休(1月1日を除く)

鳴尾いちごの風味を楽しめる銘菓

武庫川女子大学の学生が育てた鳴尾いちご入りパウダーを振りかけたクッキー。口の中でほろっとほどけ、甘酸っぱい香りが広がります。いちご味のほか、バニラ味やチョコ味も。

「甲子園ほろほろクッキー」1箱750円

【鳴尾いちごの歴史】

武庫女の
先生に聞く
interview

鳴尾地区がいちごの名産地として興隆していた頃の様子や衰退のきっかけなど、鳴尾いちごの歴史について、生活教育を専門とする酒井先生に聞きました。

武庫川女子大学
酒井 達哉先生
教育学部教授
博士(教育学)
「ふるさと教育」のカリキュラムについて研究。大学の授業では、鳴尾いちごを教材として活用している。

かつての鳴尾地区には一面のいちご畑が広がっていた

鳴尾地区は砂地が多いため江戸時代後半には綿の栽培が広まり、明治後期から昭和初期にかけては、いちごの栽培が盛んになりました。大正8年には阪神電鉄と提携して、いちご狩りが始まり、「鳴尾といえば苺、苺といえば鳴尾」という位に有名になりました。

そのいちご畑の様子は、鳴尾尋常高等小学校が編纂した『郷土相』(昭和9年)に、「五六月初夏の田園一望の下にルビーを以て飾り苺狩の客を以て埋むるの盛況を呈す」と書かれています。また、同校の卒業生である直木賞作家の佐藤愛子氏も著作のなかで「小学校のまわりも苺畑だった。鎮守のお宮も苺畑の中にあった。苺畑の中を阪神電車が風を切って走っていた」と述べています。

今では考えられないような風景が鳴尾に広がり、いちごがルビー色に輝く頃、甘酸っぱいいちごの香りに包まれていたのです。

しかし、昭和9年の室戸台風による被害や戦時体制による工場用地への収用などにより、いちご栽培は衰退していきました。いちご栽培が盛んであった頃から現在まで残る建物は阪神甲子園球場、甲子園会館(旧甲子園ホテル)などで、当時、そのまわりにはいちご畑があったと思うと感慨深いです。

当時の阪神電鉄の中吊りポスター
出典「にしのみやデジタルアーカイブ」